【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成29年8月3日(2017.8.3)

【公表番号】特表2015-505990(P2015-505990A)
【公表日】平成27年2月26日(2015.2.26)
【年通号数】公開・登録公報2015-013
【出願番号】特願2014-546566(P2014-546566)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　7/06　(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　13/00　(2006.01)
Ｂ２４Ｂ　13/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　7/06
Ｇ０２Ｃ　13/00
Ｂ２４Ｂ　13/00　Ｚ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成29年6月21日(2017.6.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
逆累進前面を有する眼用累進のレンズを決定する方法であって、
－　前記レンズの前面及び前記レンズの後面を画定するステップと、
－　前記レンズの各面の上部及び前記レンズの各面の下部を画定するステップと、
－　前記レンズの屈折率を選択するステップと、
－　前記レンズの前記前面に対する基準値であって遠方視基準点における平均球面値として定義される前記基準値を選択するステップであって、前記基準値が、入力データに基づいて選択され、調整データ若しくは光学的性能、又はその両方から選択される、ステップと、
－　前記前面に用いられる逆累進値（ｄ）であって近方視基準点と前記遠方視基準点との間の平均球面値変化に相当する前記逆累進値を、逆累進の第１、第２及び第３の中間値のうちの最大値（ｄ＝ｍａｘ［ｄ１、ｄ２、ｄ３］）として決定するステップであって、
－　前記逆累進の第１の中間値（ｄ１）を、前記後面上の近方視基準点を中心とした直径１５ｍｍの円によって画定された前記レンズの前記後面の下側部分の少なくとも一部において、２．５ジオプタ又は１．５ジオプタに設定された第１の所定値（Ｖ１）以下の平均球面値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定し、
－　前記逆累進の第２の中間値（ｄ２）を、前記前面上の前記近方視基準点を中心とした直径１２ｍｍの円によって画定された前記レンズの前記前面の下側部分の少なくとも一部において、－０．５ジオプタ又は－０．２５ジオプタに設定された第２の所定値（Ｖ２）以上の平均球面値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定し、
－　前記逆累進の第３の中間値（ｄ３）を、前記レンズの前記後面上に、６ジオプタ又は５ジオプタに設定された第３の所定値（Ｖ３）以下の加算値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定するステップと、

－　前記逆累進値（ｄ）及び前記前面のための前記基準値に基づいて、前記平均球面値及び前記加算値を含む前記レンズの前記後面を、前記レンズの着用者に関する入力データに合致するように、最適化により計算して、計算された後面を得て、前記計算された後面に従って前記レンズの前記後面が機械加工されるようにする、ステップと、

を含む方法。

【請求項２】

遠方視領域（ＦＶ）及び近方視領域（ＮＶ）を有する眼用累進レンズを形成すべく機械加工を意図された、屈折率、最終的な逆累進を示す所定の非球面逆累進の前面及び未完成の後面を有する半仕上げ眼鏡レンズのブランクを決定する方法であって、

（ｉ）所定のデータの範囲を決定するステップであって、所定の範囲内にある複数の眼鏡レンズが、前記ブランクから機械加工されるべく適合される、ステップと、

（ｉｉ）前記複数の眼鏡レンズのうちの少なくとも２つのレンズの各々について、前記前面に用いられる逆累進値（ｄ）であって、近方視基準点と遠方視基準点との間の平均球面値変化に相当すると共に逆累進の第１、第２及び第３の中間値のうちの最大値（ｄ＝ｍａｘ［ｄ１、ｄ２、ｄ３］）として定義される前記逆累進値を決定するステップであって、

－　前記逆累進の第１の中間値（ｄ１）を、前記後面上の近方視基準点を中心とした直径１２ｍｍの円によって画定された前記レンズの前記後面の下側部分の少なくとも一部において、２．５ジオプタ又は１．５ジオプタに設定された第１の所定値（Ｖ１）以下の平均球面値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定し、

－　前記逆累進の第２の中間値（ｄ２）を、前記前面上の前記近方視基準点を中心とした直径１２ｍｍの円によって画定された前記レンズの前記前面の下側部分の少なくとも一部において、－０．５ジオプタ又は－０．２５ジオプタに設定された第２の所定値（Ｖ２）以上の平均球面値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定し、

－　前記逆累進の第３の中間値（ｄ３）を、前記レンズの前記後面上に、６ジオプタ又は５ジオプタに設定された第３の所定値（Ｖ３）以下の加算値を保持しながら、前記レンズの前記前面に適用できる最強の逆累進として決定するステップと、

（ｉｉｉ）ステップ（ｉｉ）で決定された複数の前記逆累進値（ｄ）の最大値として、前記ブランクの前記前面に適用される前記最終的な逆累進の値を決定するステップと、

を含む方法。

【請求項３】

半仕上げ眼鏡レンズブランクの組を決定する方法であって、

－　調整データ範囲の組（Ｓ１、Ｓ２、Ｓ３、．．．Ｓｎ）を決定するステップであって、各々の調整データ範囲が、前記調整データ範囲Ｓｎに属する調整を有する、異なる着用者向けに複数の眼用累進レンズを製造するための調整データに対応しており、各々の調整データ範囲が、前記組の１つの半仕上げレンズに関連付けられる、ステップと、

－　請求項２に記載の方法に従い各半仕上げレンズブランクを決定するステップとを含む方法。

【請求項４】

１つ以上の格納された命令シーケンスを含むコンピュータプログラムであって、前記命令シーケンスが、プロセッサにアクセス可能であり、かつ前記プロセッサにより実行されると、請求項１～３のいずれか１項に記載のステップを前記プロセッサに実行させる、コンピュータプログラム。

【請求項５】

請求項４に記載のコンピュータプログラムの１つ以上の命令シーケンスを格納するコンピュータ読み取り可能な媒体。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００７９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７９】
ステップＳ４０５において、逆累進の第３の中間値ｄ３が、レンズの後面において第３の所定値Ｖ３以下の加算値を保持しながら、レンズの前面に適用可能な最強の逆累進値として決定される。この第３の中間値ｄ３により、後面への加算が技術的な実現可能性を保証する合理的な値に確実に保持される。第３の所定値Ｖ３は、６ジオプタに、より好適には５ジオプタに設定されている。６ジオプタの所定値Ｖ３は、加算値が後面全体にわたり考慮されている（面の最大加算値）場合に妥当である。５ジオプタの所定値Ｖ３は、加算値が基準制御点間で考慮されている（上で定義された近方視基準値ＮＶと遠方視基準点ＦＶとの間の平均球面変形）場合に妥当である。